

	第1会場：B132	第2会場：B135	第3会場：B231	第4会場：B232	第5会場：B233	第6会場：B234	第7会場：B334
10:00-10:40	スピノザの共感論 公正の起源としての「共感」	「赦し」の概念を検討する—スピノザの「憎しみ」と「愛」の議論を通して—	Can We Experience the Meanings of Words?	公正としての正義再考：権利概念を中心に	ハンナ・アレントのヒューマニズム論——政治と文化における危機	メルロポンティにおける「統合的感覚」と実在—セザンヌの考察を通して—	プラトン『国家』第VI-VII巻における「〈善〉のイデア」と「仮説されたのではない原理」
司会	柴田健志	小松原織香	張励耕	鈴木岳	青木崇	川里卓	川島彬
10:40-11:20	カントのバウムガルテン形而上学との対決—「超自然学」としての形而上学の復権—	カントとaffectio	デリダ『嘘の歴史』を読む—来るべき真理のための予備考察	意味論的内在主義と外在主義的直観の調停	デカルト的「経験」概念の多義性—«experientia»と«conscientia»—	「反省の問題」は本当に問題なのか—フッサール現象学における「生き生きした現在」の謎についての再検討	個体の数量化と抽象化：リューベックのヘンリクスによる個体化論から出発して
司会	増山浩人	勝西良典	大江倫子	仲宗根勝仁	田村歩	佐藤大介	石田隆太
11:20-12:00	カベルの日常言語哲学を通じたデリダの初期言語論の批判的再考—懐疑論の視点から	Criticism Towards Progressivism in Science and Philosophy: Through Consideration of Unexpected Outcomes Classified as Ignorance	カントとハチスン再考—スコットランド常識学派におけるハチスン受容の射程	初期ドゥルーズにおける差異の問題	「表示について」とラッセルの関数論	デカルトにおける「人間的な諸根拠」の問題—哲学を支える論証の力	アヴェロエス『「靈魂的な諸根拠」の問題—哲学を支える論証の力
司会	朱燁	渡辺貴史	高畑菜子	得能想平	伊藤遼	佐藤真人	アダム・タカハシ
13:00-13:40	アンスコムによる実践的真理に関する考察について—実践的真理及び行為の真に関する、意味の真理条件的理解—	表現の哲学としてのメルロ＝ポンティ哲学	自然誌的判断と概念の規範性	ハイデッガー『存在と時間』における「時間性」について	意志することそのものの否定がなぜ力への意志の本質をなすのか		
司会	山口誠	田中雄祐	木本周平	丸山文隆	大山真樹		
	藤川直也	加國尚志	加地大介	池田喬	城戸淳		

*発表25分／質疑15分を目安とする。

タイトル	哲学の〈女性—性〉再考——クロスジェンダーな哲学対話に向けて	哲学史研究の哲学ケーススタディ編：ライプニッツの場合	政治哲学における〈啓蒙〉の位置づけをめぐって—自然法学・人文主義・歴史叙述	責任ある研究とイノベーションとは何か—科学技術社会論と応用哲学の観点から考える—
登壇者	荒井祐介・ギブソン松井佳子・斉藤直子・朱燁	池田真治・稲岡大志・植村玄輝・坂本邦暢	上野大樹・小谷英生・網谷社介・飯田賢穂	松田 毅・標葉隆馬・藤木 篤
日時	5月20日(日) 9:15-11:45	5月20日(日) 9:15-11:45	5月20日(日) 9:15-11:45	5月20日(日) 9:15-11:45
会場	文学部・人文学研究科B棟132	文学部・人文学研究科B棟135	文学部・人文学研究科B棟231	文学部・人文学研究科B棟232